

# 頭書緒次引得

發行所	熊本市黒髪町	編纂者	第五高等學校開校五十年記念會
印 刷 所	東京市下谷區二長町一番地	印 刷 者	井上源之丞
印 刷 所	東京市下谷區二長町一番地	編 纂 者	第五十年史奥附（非賣品）
昭和十四年三月三日發行	昭和十四年二月廿七日印刷		

頁	頁
<b>總 説</b>	
編纂の目的と記述の態度	1
學制五十年史の六期	1
校史の前提と本校の四期	1
時代の區分は便宜的に過ぎぬ	2
教育は時代に順應し先驅す	2
教育制度と先覺	2
本校の歴史は本校のみの歴史にあらず	3
森文部大臣の經論	3
古城の假校舎と龍南の新校舎	3
相談會は官立にして官僚的ならず	4
創立當初の入學試験と人物考査	4
校風の樹立	5
醫學部の設置	5
地域の廣袤と建築の偉觀	5
新校開校式と聯絡相談會	6
御宸署の勅語と勅語演説	6
第一回卒業式と送別會	7
五中より五高へ	7
井上毅子の抱負	7
日清戰爭當時並に宣誓式施行當時の龍南	8
醫學部の分立と工學部の新設	8
日露戰爭當時より明治末年までの龍南	9
明治天皇御不例より獻木まで	9
現行制度施行の事情と改正內容	10
皇太子殿下（今上天皇）の台臨と當時の本校概況	10
三十周年記念の行事と事業	10
今上陛下の行幸と御親賀	11
第十三臨時教員養成所の設置	11
思想界の推移と龍南人	11
開校五十年式典と本校の概況	12
<b>第一篇</b>	
<b>第一章 九州最高の學府第五高等中學校の創設</b>	
第一節 本校設立前に於ける明治時代の教育	15
教育の指針	15
開成所を學校と爲す	15
昌平校を學校と爲す	15
大學本校に教育行政を掌らしむ	15
明治二年の規則	16
明治三年の學制並に大學規則	16
大學東校の教科書	17
文部省の設置	17
東校と南校	17
明治五年八月の學制頒布	17
大學區大學本部	18
被仰出書	19
小學校の課程並に其の學科	19
中學校の課程並に其の學科	19
大學の課程	19
中學教則略	19
外國教師にて教授する中學教則並に教科書	21
外國語學校の創立	22
師範學校の創設	22
東京大學並に同豫備門	22
新教育令の發布	23
自由民權の思想	23
小學教則綱領	24

	頁
鹿鳴館時代	24
中學校教則大綱	24
明治初年の私學	25
教育會と教育問題	25
豫備門單立の建白書	26
豫備門生徒心得	26
明治六年同十九年に於ける全國各種 學校の比較	27
同九州沖繩各縣尋常中學校	28
<b>第二節 學制の改革と森文部大臣の經 緯</b>	
須らく森文部大臣に感謝すべし	29
森文相の教育論	30
教育制度改革内容	30
尋常中學校の課程と學科	31
高等中學校の學科及其程度	31
明治十九年の教育概況	31
森文部大臣の高等中學校教育に關す る抱負	32
森文部大臣の教育の主眼	33
森文部大臣の薨去と本校	34
熊本に於ける遙祭式	34
長崎に於ける弔祭會	35
森文部大臣の寄附	35
(備考)中學校令、高等中學校の學科 及其程度第四條・第五條、文部省 告示第三號(高等中學校設置區域)	37
<b>第三節 本校の設立と敷地の選定</b>	
高等中學校の新設と森文相の視察	41
教育地としての長崎	41
熊本に於ける森子	42
第五高等中學校を熊本と定めらる	42
肥後の敷地と仙藩	43
當時に於ける東都游學是非	43
熊本設置の國家的意義	44
本校建築費の出所	44
敷地決定の經緯	45
五高等中學校中懸念なきは吾校のみ	45
<b>第四節 入學・學科・程度等に關する相</b>	

	頁
<b>談會</b>	
相談會開催の理由	47
相談會出席者氏名	47
御相談の件と第一日の討議	47
相談會第二日の情況	48
相談會第三日の情況	51
體育會組織の提唱	52
第一高等中學校の學科教科書一覽表	53
熊本縣下各學校一ヶ月諸費目調	54
熊本醫學校書籍代	55
設置區域内府縣委員會規則公布	56
<b>第二章 古城時代の本校と長崎醫學部</b>	
<b>第一節 假校舍借用、生徒募集、入學試 業、入學式、職員生徒、學科課 程等</b>	
野村校長の着任と假事務所の設定	59
假校舍の物色と古城の警察署跡	59
熊本鎮臺との交渉	60
文部大臣宛の伺書	60
會計局長よりの通牒	61
假事務所の移轉と開校の準備	62
九州各縣知事への通牒	62
授業開始遲延の理由	62
生徒入學概況申報	64
生徒募集の廣告	64
入學試業の期日と科目	65
身體檢查施行	65
及第者並に假入學者發表	65
入學式施行	65
(附記)特別検定	65
(参考)入學試業科目及概則	66
入學者の學業年齡	67
入學式當時の職員	68
豫科補充生入學に關する告示	68
豫科三級並に同補充生の臨時入學試 業施行	68
二十一年末の生徒數	69
教場増築の願出	69
生徒競勵會	70

	頁
成績並に行狀に關する生徒の處分	71
生徒心得	71
生徒姿勢標準	72
一部二部三部の分科	73
本科一部學科課程表	74
本科二部學科課程表	76
豫科三級學科課程表	78
豫科二級學科課程表	79
豫科一級學科課程表	80
(参考)明治二十一年全國高等中學校 一覽表	81
熊本縣廳跡並に漆喰射的場借用	82
他高等中學校の狀況	82
(参考)第一高等中學校豫科三級入學 試業細則	83
<b>第二章 紀元節奉祝式・入學式等に現 れたる校風の樹立</b>	
紀元節奉祝	87
文部省宛の報告	87
野村校長の訓話	87
豫科三級生の祝文	88
假入學A組の祝文	89
式後の祝杯と來賓	90
第二回入學式概況	91
佐々友房氏演述印行の經緯	92
佐々譽長演述內容	92
(参考)古莊第一高等中學校長の演說	95
(参考)木下同教頭の演說	95
<b>第三章 醫學部の附設</b>	
中學校令第一條と醫學部設置の急務	97
各高等中學校醫學部設置の地	97
本校の醫學部を長崎に定められたる 理由	97
本校の定員	98
本校醫學部の設置	98
假開校式舉行	99
入學試驗・開校式	99
開校式概況	100
九州各縣出身生徒比較表	101
<b>第三章 新校建築と其後の第五高等中 學校</b>	
第一節 地域の廣袤と建築の併觀	
校舍建築設計の經緯	115
設計案に關する本省よりの照會	115
本校よりの希望條件	115
建築工事着手の方法に關する通牒	116
建築の模様(第五高等中學校新築落 成式報告)	116
他高等中學校との敷地面積比較	118
本館の竣工と假移轉の經緯	119
建築の苦心	120
材木運搬費調	121
二十二年の劇震と本校	122
シカゴ世界博覽會へ本校建築圖の出 品	122
授業開始の經緯	123
野村校長の非職	123
新校移轉直後の職員生徒數	124
新聞廣告糾調	125
<b>第二節 新校開校式及び官制の改正等</b>	
開校式日決定の經緯	125
漸く十月十日と確定	127
演尾局長の着熊	127
新校開校式概況	127
平山校長の式辭	128
演尾局長の演述	130

	頁
富岡知事の祝詞	135
嘉悦議長の祝詞	136
木崎生徒總代祝詞	137
開校式當時の本校	138
本科一部二部の學科課程表	139
豫科及同補充科學科課程表	141
顯微鏡參觀	142
直轄學校官制の改正	142
財產購入代金支付	143
二十一年度教科書目	143
<b>第三節 本校設置區域内各縣協議會並に各縣經費分擔等</b>	
諮問委員會と野村校長の意見	146
商談委員規程	146
二十一年の相談會	147
杉浦次長の演説	148
協議會規約	149
二十一年の協議會に於ける青木書記官の演述	151
二十三年の協議會	152
二十四年の協議會と嘉納校長の氣魄	153
二十五年の協議會	156
九州中學教育要報發行の件決定	158
二十六年の協議會	158
二十七年の協議會	159
協議會規約に關する松平知事の要望	160
區域内及連絡尋常中學校名	161
協議會組織内容の變更	161
<b>第五地方部高等中學校及尋常中學校協議會規約</b>	
本校經費の各縣分擔	162
二十一年九州人口比較	163
九州各縣尋常中學校生徒及經費	164
<b>第四節 御宸署の勅語と勅語演説</b>	
校寶と準校寶	166
御下賜前に於ける歐米心醉と國民道德の缺如	166
教育勅語下賜	167
文部省の訓令	167

	頁
勅語奉讀式と演説	168
熊本に於ける勅語賛本交付式	168
御宸署の勅語下賜	168
醫學部に於ける奉拜式と本校校長室に奉掲しある勅語の大額	168
秋月教授の「勅語演説」	170
勅語演説を進つる表	170
中川校長の序文	172
木村弦雄氏の跋文	173
山高水長集と鎮西餘響	174
<b>第五節 第一回卒業式と送別會、附二十五・六年に於ける本校</b>	
第一回卒業式概況	175
嘉納校長の告辭	176
生徒總代の祝詞	179
吉田醫學部主事の祝詞	180
卒業生送別會概況	181
二十五年十月末の職員生徒數	182
能久親王殿下令旨	184

## 第二篇

### 第一章 第五高等學校前期

<b>第一節 改稱の經緯と井上文部大臣の抱負</b>	
高等中學校改稱の通牒	185
改稱の理由と井上子の抱負	185
井上文相の訓令	186
改正の内容高等學校令	187
學部並に大學豫科設置に關する文部省令	188
修業年限並に入學程度に關する省令	188
大學豫科の學科規程に關する省令	188
第一部學科及び時數	189
第二部學科及び時數	190
第三部學科及び時數	191
二十八年の改正	192
井上文部大臣の巡回	193
井上文部大臣の工業論	193
井上子の薨去と龍南人	194

	頁
三高及び造士館よりの轉學	194
<b>第二節 日清戰爭當時の龍南</b>	
龍南會雜誌中の行軍に關する記事	195
豐筑修學旅行日誌	195
大婚滿二十五年奉祝と龍南人	196
故平山校長の三年祭、永井書記の葬儀	197
中川校長の訓告	197
第一回征清軍戰勝祝賀式	198
二十七年の行軍	198
第三回征清軍戰勝祝賀式	198
應召小使の家族への義捐金	198
體操副科擊劍柔道實施	198
開校紀念の歌	200
興行物に關する照會の公文	201
兎狩の壯舉	201
武裝検査	202
副科を正科に準ぜしむ	202
寒稽古の盛況	202
第六回紀念會	202
校則の一部改正	202
倫理講筵の改正	203
中川校長の演説	203
龍南會雜誌中の記事	204
學科課程の改正	206
第一部課程表	206
第二部課程表	207
第三部課程表	208
<b>第三節 宣誓式施行前後の龍南</b>	
通學生の表札	209
櫻井校長の訓告	209
禁酒に關する通告	211
中學校長宛の諒解	213
宣誓事項	213
宣誓文の朗讀・宣誓簿に署名	214
龍南會雜誌の記事	215
明治三十七・八年戰後の思想界	219
學科課程の改正	219
第一部課程表	220
<b>第四節 其後の醫學部と分立</b>	
醫學科の增設と本校の定員増加	224
新築校舎へ移轉	224
開校式舉行	224
永井課長の報告	225
吉田主事の演述	228
學科課程の改正	232
専門科とせらる	232
醫學科課程表	232
藥學科課程表	235
主事の任免	236
三十三年までの卒業生	236
三十三年の在學生	237
各醫學部の分立	238
研鑽會の成立	238
<b>第五節 工學部の設置より分立まで</b>	
工學部の設置	241
工學部主事の任命	241
入學試験科目	242
三十二年九月三十日調工學部生徒府縣別	242
土木工學科課程表	242
機械工學科課程表	244
獨立に關する意見書上申	246
三十年より三十四年に至る志願者合格者	247
第一回卒業者數	248
學科課程の變更	248
獨立と中原校長の任命、本校職員の轉勤	248
移轉通知書	249
工友會の成立	249
工友會會則	250
<b>第六節 日露戰爭當時より明治末年までの龍南</b>	
日露戰爭の原因	253

頁	頁	頁			
國交斷絶宣戰布告.....	253	遙拜式心得.....	274	皇太子殿下の御動靜.....	296
小村外務大臣より久保田文部大臣へ 宛てたる通告.....	253	遙拜式の準備.....	274	(備考)行啓に關する具申書.....	297
木場文部次官の通牒.....	254	龍南會雑誌の記事.....	275	濱尾太夫の通牒.....	298
文部省の通知と注意.....	254	桃山御陵參拜.....	276	行啓事務に關する役割.....	299
龍南會雑誌の記事.....	255	明治神宮獻木.....	278	台覽品説明書.....	300
優渥なる御沙汰下賜.....	256	昭憲皇后陛下御容態の天機奉伺.....	280	本校の現況摘記.....	304
校風に就いての慷慨.....	256	敬悼式と遙拜式.....	280	舊規程に依る最後の告別式と入學式.....	312
熊本學生講武會の成立.....	258	<b>第八節 御即位禮奉祝式、御大典式場</b>		<b>第三節 開校三十週年</b>	
熊本學生講武會開會の辭.....	258	跡拜觀修學旅行並に立太子禮 奉祝式		三十週年の起算.....	313
桂内閣總理大臣に下し賜へる勅語.....	259	御即位禮奉祝式.....	280	職員生徒の準備.....	314
校風の危機を慨く.....	260	御大典跡拜觀.....	281	記念式の概況.....	314
旅順陥落祝賀式.....	260	立太子禮奉祝式.....	282	吉岡校長式辭.....	315
日本海々戰祝賀式.....	260	立太子禮奉祝辭.....	282	中橋文相祝詞.....	317
東郷大將に送達せる寫眞の説明書.....	260	奉祝提灯行列.....	283	杉山教授に對する文部大臣の感謝狀.....	317
出征職員に對する激励.....	260	<b>第二章 第五高等學校後期</b>		同本校の顯彰狀.....	318
常陸山關來る.....	261	<b>第一節 現行制度施行の事情と改正の 内容</b>		龍南會の行事並に事業の數々.....	318
中堅會の出現.....	261	菊池文部大臣の改革案.....	285	<b>第四節 今上陛下の行幸と御親闇</b>	
久保田文部大臣の祝詞電報.....	261	小松原文部大臣の高等中學校案.....	285	御慶賀より御安着まで.....	319
文部大臣の警告電報.....	261	古市博士の修正案.....	286	御統監後の御動靜.....	319
武夫原頭・それ北韓.....	263	奥田文部大臣の無期延期運動.....	286	奉迎の諸準備.....	319
轉校事件.....	263	臨時教育會議と高等學校令案.....	286	行幸の御模様.....	320
禁酒條項廢止.....	263	高等學校令發布.....	287	天覽品の種目.....	321
職員の移動.....	263	高等學校令.....	287	武藤校長の奏上書.....	324
擔任教官制度・生徒監の増員.....	263	高等學校規程.....	288	天覽品室に於ける臨時側近奉仕者.....	326
戊申詔書と當時の社會状勢.....	264	教授は生徒の教育を掌る.....	289	國歌吹奏團種目及人名.....	326
戰後の校風.....	265	學科課程並時數.....	289	御前運動競技種目及人名.....	327
校規の端正と評議員規程・教授會規 程・事務員服務細則・擔任教官規程.....	270	文科の學科課程.....	291	御親闇豫行演習.....	328
剛毅木訥是非.....	271	理科の學科課程.....	291	御親闇概況.....	329
創立第二十周年記念式.....	271	改正前との比較.....	293	<b>第五節 第十三臨時教員養成所</b>	
教育勅語發布第二十周年記念式.....	271	學年の始と終.....	293	第十三臨時教員養成所歎學科の設置.....	331
杉山教授在職二十年祝賀會.....	271	定員減少の實施.....	293	生徒募集に着手.....	332
<b>第七節 御大葬と桃山御陵參拜・贈獻</b>		理科(1)(ロ)の區別.....	293	國語漢文科設置.....	332
木並に皇太后陛下の御大葬遙 拜式		高等學校增設.....	293	第二回卒業式の文部大臣祝詞.....	332
明治天皇御違例と御機嫌伺の電報.....	271	明治十九年より大正八年に至る全國 高等學校生徒數.....	294	當所規則の内容 (目的・年限・入學資 格・學科・退學・學年學期・卒業服裝・ 服務規則・生徒府縣別等).....	333
崩御と遙拜式.....	272	<b>第二節 皇太子殿下の行啓と當時の本 校概況</b>		卒業後の地位と愛校の觀念.....	335
御大葬に付体業.....	274			<b>第六節 思想界の推移と龍南人</b>	
				左翼的方面の動向.....	336

	頁
福岡校長祝辭	373
山形教頭祝辭	375
赤星總代祝辭	376
生徒總代祝辭	377
文部大臣感謝狀	378
記念會館獻納辭	378
教官表彰狀	379
書記表彰狀	379
雇員倅人表彰狀	379
被表彰者氏名	380
<b>第三 午 餐</b>	
來賓職員午餐	381
全校生徒午餐	381
<b>第四 慇 禮 祭</b>	
懇靈祭概況	382
十時會長の祭文	382
<b>第五 記念大講演會</b>	
豫定の變更	383
十時會長の挨拶	383
村川堅固氏の講演	383
後藤文夫氏の講演	383
嘉納元校長の講演	383
松井元興氏の缺講	385
<b>第六 展 覧 會 其 他</b>	
各種展覽會	385
同窓會全國大會	385
龍南會主催の種々	385
習學寮の事業と行事	385
<b>第三篇</b>	
<b>第一章 寄宿舎の五十年</b>	
寄宿舎と校風	405
古城時代の自習室と收容人員	405
新校寄宿舎の設計と其の計画	405
全寮主義の目標	405
寄宿舎細則	406
習學寮の名稱と全寮制度明示	406
依頼寄宿制に變更	406
期限附全寮制度に變更	407

	頁
新入生期限附義務制に變更	407
新入生以外の舊生徒依頼許可制	407
現行制度の目的と寄宿義務の期間	408
寄宿舎の改築と收容人員の變更	409
寄宿舎細則と自習室寢室心得	409
外出歸舍心得	410
其他數々の心得	410
室長及び室長補の責任・舍監の點檢 等	410
炊事委員長授業料免除問題	411
自炊制度の實施	411
自治共同の精神強調	412
寮總代・委員	412
黒本舍監の訓戒	412
寮生誓約	413
龍南會雑誌に現れたる寮風	413
秋月舍監への思慕	416
學寮會	416
病災要錄	420
第一・第二校外寮	421
最近十年間の人員調	422
<b>第二章 龍南會の今昔</b>	
第一節 龍南會の成立と雑誌の創刊	
第五高等中學校體育會の成立	423
體育會規則	423
古城時代に於ける金蘭會回覽雑誌	424
研志會雑誌・龍南叢誌・擊劍會・弓術 部・土曜會	424
滋納校長の來任と校友會の成立	424
校友會成立の經緯	424
創立委員選舉會	425
開會式舉行	425
役員及び各部情況	425
開會式概況	426
龍南會會則	426
龍陽を龍南と改む	430
龍南會雑誌の創刊	430
本誌發行の主旨	430
<b>第二節 龍南會の傳承と雑誌「龍南」</b>	

	頁
の改題	
傳承の二方面	432
會則の追加	432
二額の由來と瑞邦館	433
入神致用	433
瑞邦	433
瑞邦館と稱せらる	434
順道制勝	435
龍南會支部の成立	435
雜誌部委員の減少と總務委員獨立	435
入會費の徵收	436
明治二十九年度收入支出豫算表	437
造士館の廢校と龍南會員の增加	437
戶外遊戲部を運動部と改稱	438
端艇會の成立より該部へ	438
「濟美」奉掲	438
工學部の分立と會員の減少・所屬財 產の分配	438
豫算會議に組長參加の件提唱	439
選手遠征費補助	439
野球部・庭球部・水泳部等の成立、運 動部の成立、山岳部・競技部・籠球部	
排球部・馬術部・音樂部の成立、ア式 ラ式の分立、ホッケー俱樂部の公認	439
規則の複雜化	440
昭和十二年度豫算表	440
谷將軍の題簽	442
「龍南」と改題	443
<b>第四篇</b>	
<b>第一章 補 遣</b>	
一、各宮殿下の台臨並に奉送迎	
台臨の各宮殿下	445
有栖川宮殿下	445
北白川兩宮殿下	445
小松宮殿下	447
御染筆を乞ひ奉りて「濟美」の御額を 奉掲す	448
再度の台臨	448
<b>二、帽章と白線</b>	
本校と第一高等中學校との關係	454
帽章に關する一高よりの回答	454
帽章及び釦の改正	455
白線の一條・二條・三條	455
<b>三、修學旅行より野外演習まで、 附兎狩</b>	
旅行規程の改正	456
二十三年の旅行	456
修學旅行費決算	457
二十四年の出迎	458
二十五年旅行概況	458
二十六年旅行概況	458
見學主體を軍隊組織に變更	459
三十四年の改正	459
三十九年の改正と發火演習規程	459
改正の理由	459
四十年十月十四日の教授會	460
四十四年の發火演習と花瓶	460

頁	
發火演習規程を廢して新に野外演習	
及射撃演習規程を定む	460
大正八年の改正	460
昭和四年の改正	460
宿泊旅行の最後	460
二十二年の兎狩	461
<b>四、提灯行列</b>	
熊本に於ける提灯行列の嚆矢	462
<b>五、栽樹會</b>	
愛校精神の發露	463
栽樹會の起源	463
紀元節に栽樹	464
栽樹會の解散	464
<b>六、門札とポスト</b>	
曾ては七不思議の一	466
校札の廢棄	466
ポスト設立年月	467
<b>七、カツター來る</b>	
讓與の照會	467
カツターの構造	468
旅順・大連と命名	468
廻漕の概況	468
カツター委を消す	469
<b>八、私的の諸會</b>	
既記の諸會	469
硯友會	470
佛教青年會	470
有終會	470
花陵會	470
紫溟吟社	470
紅葉會	470
小詩會	471
泰東會	471
白雨會	471
二葉會	471
青柳會	471
龍南短歌會	471
白路社	471
社會科學研究會	471

頁	
エスペラント研究會	471
東光會	472
童話會	472
映畫同好會	472
哲學讀書會	472
蒼龍社	472
科學同好會	472
洗心會	473
吟咏會	473
哲學研究會	473
龍嶽怒號會・蘇鳴會・山上・翼・三四部等	473
<b>九、來校の名士</b>	
來校の名士	473
特別講義(日本文化講義)の講師氏名	
と年月	481
野外教練查閱官並に査閲日	482
<b>十、金品の寄附</b>	
蕃滋園より移植當時の植物目録	485
蘇鐵	486
その他	486
<b>十一、卒業式より敍別式まで</b>	
卒業式缺席者増加の理由と出席督勵	
の通知	488
卒業式廢止告別式舉行の開申	489
敍別式と改稱	489
<b>十二、プール</b>	
プール設置の經緯	489
熊本市との覺書	490
専用井戸の開鑿	492
<b>十三、對七高戰</b>	
對七高戰協定事項	492
紛擾顛末の報告	494
<b>第二章 任命順職員一覽表・附索引</b>	
任命順職員一覽表	497
索引	522
<b>第三章 編年沿革略</b>	531

## 結語

頁	
不器的人物教育の必要	555
本來の使命の遂行	555
時代の趨勢と本校校風の變遷	555
生徒善導の困難と教授内容の反省	556
青年心理正義觀	556
黙々不言の歴史と傳統の威力	557
改革は理論的且歴史的たるを要す	558
鹿を逐ふ者山を見ず	558
高等學校の使命	559
二年有半の感懷	559

## 附錄 五高同窓會と開校五十年 記念會

### 一、五高同窓會小史

五高同窓會創立と溝淵校長の盡瘁	561
溝淵會長の挨拶	561
五高同窓會規則	563
創立當時の役員	564
武藤新會長を迎ふ	565
武藤會長退任辭	565
規則一部の改正	566
十時現會長を迎ふ	566
十時會長の挨拶	566
役員の移動	567
各地の支部	568

### 二、開校五十年記念會

記念會の目的と行事並に事業	568
發起人依頼狀	568
趣意書	571
記念會館	572

## 圖表

<b>表</b>	
(一)本籍別現在數(自明治二十一年至昭和十二年)	386
(二)最高・最低・平均年齢(自明治二十年至昭和十一年)	393
(三)入學者・生徒數・卒業者・本校部卒業者中死亡者	404
(四)卒業者地方別概要(昭和十二年現在)	573
(五)卒業者職業別概數(昭和十二年現在)	574

## 圖

(一)計畫圖面	112
(二)新築當時圖面	112
(三)昭和十二年現在圖面	113
(四)醫學部圖面	241
(五)工學部設置當時圖面	252

一〇七  
一八六  
一八七  
一八八  
四一六  
四一八  
四二一  
四二二

誤植訂正

行訂正

四四五二一〇

述。好。益。條。止。を。誤。

述。評。澄。等。企。の。正。

目次表(一)(二)(三)ノ頁ハ卷末引得ノ方正シ  
三八一頁ノ寫眞ハ重出、他ト代リタルニ非ズ  
四一三頁ノ寫眞説明ニ堂消ノ二字ヲ脱ス